

●マンガ・アニメによる地域活性化について

Q.

日本のマンガ・アニメは世界中から注目されており、ファンがマンガ・アニメの舞台となった街を訪れる事は、「聖地巡礼」と呼ばれています。

ゴールデンカムイというマンガ・アニメは北海道が舞台ではありますが、新発田市出身のキャラクターや新発田第二師団に所属していたキャラクターが登場するなど、新発田市や新潟との接点が多々見受けられます。

また参考になったのではないかとされている自衛隊新発田駐屯地や白壁兵舎広報資料館に「聖地巡礼」として訪れている方も居るそうです。

等身大パネルを置いたり、クイズラリーやスタンプラリーをしたり、コラボ商品などを販売したり等々、地域振興に役立つのではないかと思います手紙を書きました。

(令和3年9月受付)

A.

『ゴールデンカムイ』という作品について、詳しい内容を存じ上げませんでしたので、急ぎ担当課に確認をさせましたところ、新発田出身の“宇佐美上等兵”という、忠誠心の強い、異彩を放つキャラクターが登場すること、作者による入念な取材に基づいた作品であり、男女問わず幅広い年代に人気を博している影響力のある作品であることを、遅ればせながら認知したところです。

作品にゆかりのある土地を巡る「聖地巡礼」は、大きな経済効果をもたらす地域活性化策・観光誘客策として近年注目を集めており、当市でもドラマや映画等の映像作品のロケ誘致を図り、「聖地巡礼」による観光誘客を目指しているところであります。

新発田を知らなかった方が、作品をきっかけに当市に関心を持ち、お越しいただけるというのは、当市の目指すところでありますので、活用に向けての事例収集と実現の可能性について調査するよう、担当課へ指示をいたしました。

今後は提案いただいた貴重なご意見を参考に、より多角的な視点で観光振興策の研究を進めてまいります。

(令和3年10月13日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。

●商店街について

Q.

商店街が寂しく感じます。なぜ、あんなにシャッターがしまっているのでしょうか？理由がよくわからなくて…新発田市中心市街地活性化基本計画には目を通したのですが、結局具体的に商店街についてどうするのかよくわからず…。

(令和3年9月受付)

A.

駅前から続く商店街については、古くから“市民の台所”として、スーパーや小売店、レジャー施設などが立ち並び、昭和期には市民生活を支える拠点としてにぎわいをみせるなど繁栄を遂げてきました。平成の時代に入り、人の流れが中心部から郊外へと変化する中で、中心部の商店街は、高齢化や後継者不足といった事業継承などの問題が重なり、市民の生活を支えた長い歴史に幕を下ろすお店が増え続け、今現在に至っています。

当市では、多くのお店が立ち並び、市民の活気で溢れていた商店街を取り戻すため、平成28年度に新発田駅前複合施設（イクネスしばた）を建設し、平成29年度には市の中心部に新発田市役所本庁舎（ヨリネスしばた）を移転するなど、中心市街地活性化の新たな拠点として整備を行いました。ヨリネスしばた1階「札の辻広場」では、市民交流の拠点としてオープン当初から多くのイベントが開催されており、平日にはキッチンカーや物販販売の出店が定着しているほか、遊具等を設置し親子連れの遊び場としても利用されています。

このような流れの中で、市の補助金を利用し商店街の空き店舗を活用してカフェなどを開業する動きや、今年7月には市内高校生が主体となりお店を出店し、地元食材を使った手作りパンの販売を試みるなど、少しずつではありますが従来のにぎわいとは異なる新たなまちづくりを進めております。

コロナ禍、中心市街地のにぎわいを題材としたイベント等は縮小を余儀なくされ、人の流れも鈍化傾向にあります。生活様式の変化などを含め、これまでとは違った新たなにぎわいを商店街の方々や関係団体等と連携を図り、魅力ある中心市街地活性化を進めてまいります。

(令和3年10月18日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。

●飯豊連峰赤谷口（湯ノ平温泉から北股岳）への登山道の件

Q.

8月末に久々に飯豊連峰を縦走してきました。飯豊は全国の山々でも高山植物が豊富、残雪に映える景色、水の確保も豊富と全国の山登りの方々も魅力のある山域となっています。ここ数年、気候変動のためか大雨や地震等により災害が発生していることは理解しております。お願いです。件名に記載しております登山道は通行止めとなっており登山道の整備を行っていただきたく願います。併せて、湯平温泉も利用できるようお願いいたします。（令和3年10月受付）

A.

お問い合わせいただきました湯の平温泉については、平成29年度に加治川治水ダム上流の加治川ダムへと続く赤谷林道の法面が崩落したことによりこれまで通行ができない状況が続いておりましたが、令和2年度に本市と共同で当該林道を管理する東北電力株式会社が復旧工事を施工し、当該崩落箇所の危険な状況は改善されたところであります。

しかしながら、今年度から令和6年度にかけて行われている東北電力株式会社による加治川ダム改修工事に際し、大型重機等の通行に係る安全性確保の観点から当該林道への立ち入りを禁止しているため、残念ながら現在も赤谷林道から北股岳登山道までの間を開通することができない状況にあります。

そのため、本市といたしましては、東北電力株式会社による加治川ダム改修工事の完了後、早々に現場の状況確認に入り、まずは、湯の平登山道を開山するための環境整備を優先して行うとともに、湯の平温泉及び北股岳登山道の再開についても、関係機関と連携を取りながら、前向きに検討を進めてまいりたいと考えております。

（令和3年10月28日回答）

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。